

－はじめに－

私たち夫婦にとって初めての中学受験（長男：現在中学3年生）を経験してから2年が経ちました。長男が受験したいと言い出した時は、全く初めての経験で手探りのまま一生懸命立ち向かった感じですが、今回の次男の中学受験に関しては、また違った意味で手探りでした。『寝耳に水』と言った表現がピッタリ。まさか、次男が受験したいなんて言い出すとは、夫婦2人とも思ってもいませんでした。どちらかと言えば、勉強嫌い。兄と通っていた塾も途中で辞めてしまう。ましてや、母親が自宅でやっている学研教室の生徒としても、さぼりがちな日々が続き、5年生の時にドロップアウト！同級生の友達と仲が良く、帰り道も遊びながら帰り、一度帰ってからもランドセルを玄関に投げ捨てて、遊びに行ってしまう毎日。もちろん、宿題はしていません。私も同じことをしていたため、共感出来ますし、同級生の仲の良い友達と地元

の公立中学校に自然と進学して行くものと思っていました。

そんな私そっくりの次男が突然、中学受験をしたいと言いました。

時は199X年・・・、北斗の拳ではないですが、訳もなく少しパロってみました。時は2019年の夏。私たち夫婦からすれば、まさに世紀末のような次男からの一言。本当に嬉しかったです。それは、本人が決めたことだから。そして、長男の時の体験から中学受験の素晴らしさを知っていたから。ただ、めちゃくちゃ不安でした。今まで、本人がやりたいと言って始めたことで長く続いたことがない次男に、本当に出来るのだろうか？途中で投げ出してしまわないだろうか？それにより、自分に自信が持てなくなってしまうのだろうか？そもそも、行ける学校はあるのだろうか？・・・・・・・・

応援はするし、サポートはするけど、実際にやるのは本人。「う〜〜ん」っと夫婦で悩みました。でも、言ってくれたことは

嬉しい。本当は挑戦してみたかったけど、最初から無理そうだから言わず、後でやっぱり僕も受験すれば良かったと中学生生活を悶々と過ごすのではなく、きちんと意思表示をしたことにはすごく価値がある。そして、挑戦することに価値があると常日頃私自身が思っているなら、それを次男と一緒に実践するだけだ。仮に望む結果にならず、公立中学校に通うことになっても仲の良い友達と3年間過ごせるし、次は高校受験をすればいいだけ、そして何より中学受験の素晴らしさはもちろん、挑戦することの素晴らしさを知り、同時に結果を出すことの難しさも学ぶことが出来る。

「よしっ！やろう！！」心の中で私たちは決断しました。そして、その日から、2回目の中学受験はスタートしました。

～抜粋版ですが、『はじめに』のみ全文掲載いたします～

全文読んでみたいと思われた方は完成後小冊子として送付させていただきますので、

メールにてお問合せください。